

研究テーマ	低学年児童に個々の感性を生かした大きな絵画作品を作成させるための工夫 －第2学年「こん虫かいじゅうあらわる！」の実践を通して－
-------	--

取手市立取手小学校 教諭 中村 良美

I 研究テーマについて

現行の小学校学習指導要領では、図画工作科の目標として「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」とある。この中にある「感性」とは、「ものを豊かに感じ取る力」であると考えられる。そこで、本研究では「個々の感性を生かした絵画作品づくり」をテーマにしようと考えた。

では、どのようにすれば「個々の感性」を絵画作品に生かすことができるのか。その方法として、大きな紙に絵を描くことを考えた。大きな紙に描くことは、いろいろな画材や技法を取り入れたり試したりすることもでき、児童が感性を働かせながらのびのびと表現したいことを表現するのに適していると言えるのではないかと考えた。児童は校庭や道路に絵を描いて遊ぶこともあり、大きい作品づくりに意欲を示すだろうと考えた。しかし実際には、低学年の視野の広さや発達段階では、大きな紙に絵を描くことは難しいという。そこで、低学年児童でも大きな作品を描きあげることができるような手立てを考えながら、児童個々の感性を生かした作品をつくることを目指したいと考え、今回のテーマを設定した。

II 研究の実際

1 題材名 こん虫かいじゅうあらわる！

2 題材の目標

昆虫の動画や写真から感じ取ったイメージを擬音語や擬態語などの短い言葉で表現し、それが表現できるように工夫しながら、四つ切りサイズの作品をのびのびと作成することができる。

3 題材について

(1) 児童の実態（在籍 男12名 女15名 計27名）

（調査日）平成26年9月5日 調査人数：27名

調査項目	回答(名)			
図工科の学習は好きですか。	とても好き 21	まあまあ好き 4	あまり好きではない 2	好きではない 0
	【好きではない理由】うまく描いたり作ったりできないから			
図工科の中では、どんな活動が好きですか。（複数回答可）	工作に表す 21	粘土で表す 16	絵を描く 13	作品を見て、感想を言い合う 3
何の虫の絵を描きたいですか。（自由記述・複数回答可）	カブトムシ 11	チョウ 10	バッタ 9	テントウムシ 7
	クワガタムシ 6	セミ 3	コオロギ 3	その他 18
どんな道具を使って描きたいですか。（複数回答可）	絵の具 15	色紙 14	クーピー 12	クレヨン 8
	マジック 7	太筆 3	フェルトペン 2	使ったことのない道具 3
	その他（えんぴつ 2	セロハン 1）		
大きな作品をつくるのは、楽しみですか。	とても楽しみ 21	まあまあ楽しみ 6	あまり楽しみではない 0	楽しみではない 0

本学級には、図工科が好きな児童が多い。特に工作が好きな児童が多いが、絵も約半数の児童が好きだと答えている。大きな紙に絵を描く学習も、ほとんどの児童が楽しみだと回答した。しかし絵を描いている様子を観察してみると、八つ切り画用紙でも飽きてしまっ最後まで意欲的に取り組めない児童や、意欲や発想が乏しく少し描いただけで終わりにしてしまう児童、どのように描くかなかなか決められず作業が遅れてしまう児童も少数ながらいる。画材については、各自で購入したばかりの絵の具に対する関心が高かったが、色紙を使ったコラージュやちぎり絵などにも関心を寄せていることが分かった。

(2) 題材観

児童は昨年からクレヨンを用いて多くの絵を作成してきている。また、第1学年「てでさわってかくのきもちいい！」では絵の具の感触を、「はるはるおはながみのえ」では花紙の感触を味わいながら絵画作品を作成している。

本題材では、昆虫を四つ切りサイズの紙いっぱい描き、その昆虫と遊んでいる自分や友達をその周りに描くという作品づくりを行う。昆虫の写真や動画を見て感じ取ったその昆虫のイメージから想像を広げて表していく。

これは、学習指導要領の内容A表現（2）イにある「感じたことや想像したことから、表したいことを見つけて表すこと」を指導する題材である。

(3) 指導観

今回は、アンケートの結果、人気の高かったカブトムシとチョウを題材とした。児童が題材に向き合い、自分の感性を働かせて作品づくりができるように、十分な時間を確保したい。各自が感性を生かして作品づくりに取り組めるよう、カブトムシやチョウの写真や動画を見たり、作品をつくっていく過程で感じたりしたこと、短い言葉や擬音語・擬態語で表し、それを絵にも生かしていきことができるように指導する。また、大きな画用紙に迫力ある絵が描けるよう、カブトムシやチョウの主線を習字用の筆と墨汁を使って描いていく。ほとんどの児童が筆を持つのは初めてだと思われるので、描

く前に筆遊びをして、筆で多様な線が描けることに気付いたり、筆の弾力を味わったりし、それを生かしながら作品づくりに取り組めるようにする。作成しながら友達と話したり友達の作品を見たりすることによって、さらに児童の想像が広がると考える。友達と話したり、友達の作品を鑑賞しながら作成できる雰囲気づくりや場の設定にも配慮したい。

また、今回は児童が感性を働かせながらのびのびと表したいことを表現できるよう、四つ切りサイズの紙で作品をつくることにしているが、低学年の視野の広さや発達段階では大きな紙に絵を描くことは難しいという。そこで、筆で描く→ちぎり絵によって彩色→周りの人物を描く→背景を描くという段階を踏むことによって、焦点をしぼって作成するとともに、意欲の継続が図れるように配慮していきたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
題材や筆などの用具、技法に関心を持ち、進んで作品づくりに取り組もうとする。	筆や色紙の感触、昆虫の写真や動画などから自分なりのイメージをもって表すことができる。	鉛筆や筆、色紙、クレヨンなどを用い、自分のイメージを生かしながら工夫して表すことができる。	自分や友達の作品を見て、感じたことを書いたり話したり友達の話を聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くことができる。

5 指導と評価の計画 (10 時間扱い)

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ①	カブトムシやチョウの写真や動画の資料を見て、体や動きの感じについて思ったことを話し合う。 カブトムシやチョウが大きくなったら何をしたいか想像し、作品の構想を練る。	・カブトムシやチョウの写真から、昆虫の体や動きの印象について感じ取ったことや、想像して練った作品の構想を言葉で表している。 【想】【観察、発表、ワークシート】 ・カブトムシやチョウを表すことに興味をもち、資料からイメージをもととしたり、楽しんで想像を膨らませたりしている。 【関】【観察、発表、ワークシート】
第2次 ③	画用紙にカブトムシやチョウの絵の下描きを描く。 筆遊びを行い、筆の感触を知り、いろいろな線が引けることをつかむ。 筆遊びで得た感覚を生かしながら、カブトムシやチョウの主線を筆でなぞる。	・第1時のイメージを生かしたり深めたりしながら、鉛筆でのびのびと下描きを描いている。 【創】【観察、作品】 ・手の感覚を生かして筆を使い、表したい線を描いている。 【創】【観察、作品】 ・筆の感触を味わうことで、作品づくりへのイメージを膨らませている。 【想】【観察、ワークシート】
第3次 ③	カブトムシやチョウの絵を切り取り、マーメイド紙に貼る。 カブトムシやチョウに色紙などをちぎって貼る。	・色紙や折り紙、包装紙などを、手の感覚を働かせながらちぎり、自分のイメージに合うように工夫して貼っている。 【創】【観察、作品】
第4次 ②	カブトムシやチョウと遊んでいる自分や友達の絵を描く。 絵の具などを用いて背景を仕上げる。	・想像を膨らませて周りで遊んでいる自分や友達の様子を表している。 【想】【観察、ワークシート、作品】 ・絵の具やクレヨンなどを適切に用いて周りの絵や背景を描いている。 【創】【観察、作品】
第5次 ①	前時までに仕上げた作品を見合い、よさを伝え合う。	・自分の作品の話をつくり発表したり、友達の作品を鑑賞したりして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付いている。 【鑑】【観察、発表、ワークシート】

6 指導の実際

指導の前段階として、事前アンケートの結果カブトムシとチョウが人気だったこと、そのどちらかを描くので、カブトムシかチョウが大きく写っている写真を用意するよう児童に話をした。そして、保護者にも「大きく出ている図鑑や、インターネットなどの画像を大きく拡大したものが描きやすい」こと、「飛んでいるところなど動きのあるものだと子どもたちの想像が膨らみやすい」ことを伝え、資料探しの協力を呼びかけた。すると、いろいろな資料が集まり、大変効果的だった。

(1) 第1時

カブトムシやチョウの写真や動画の資料を見て、体や動きの感じについて思ったことを話し合う。 カブトムシやチョウが大きくなったら何をしたいか想像し、作品の構想を練る。
--

- ① 作品づくりの見通しをもたせる
製作過程を提示して今後どのように作品をつくっていくかを簡単に説明した。そして、感じたことを短い言葉でワークシートに書き、それを絵に表現できるようにしよう、と話をした。
- ② カブトムシやチョウの動画を見せる
コンピューター室でカブトムシやチョウの動画を見せた。児童はとても興味深く動画を鑑賞し、意欲のある児童は、動画を見ながらすぐに感じたことをワークシートに書き出していた。
- ③ 昆虫の資料や動画を見てイメージをつかみ、どんなイメージをもったか話し合う
カブトムシチームとチョウチームに分かれ、集まった資料や動画からどんなイメージをもったか自由に話し合わせながらワークシートに記述させた。その後、全体の前で発表し、共有化を図った。

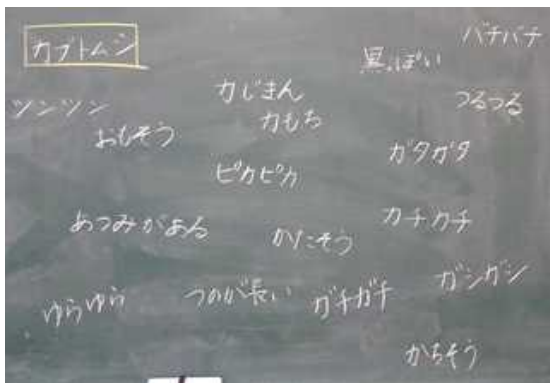
児童は意欲的に話し合いを行い、非常に多様な意見を出すことができた。この過程で、チョウの資料を用意してきたが、カブトムシに変更する児童が何名も出た。



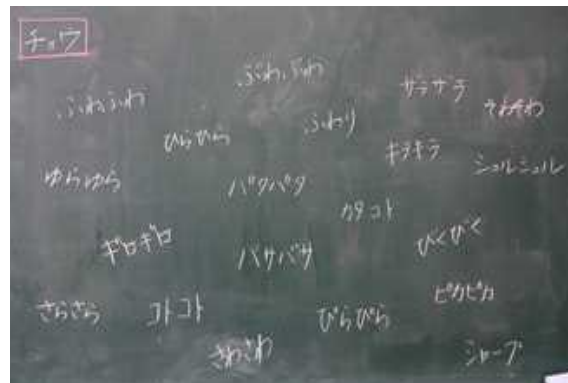
カブトムシとチョウの動画鑑賞



イメージの話し合い



児童から出たカブトムシのイメージ



児童から出たチョウのイメージ

④ どんな作品をつくるか考える

この時点では、すでに構想が固まっていたたくさん記述できた児童と、そうでない児童に分かれた。書けた児童には作品をつくる中で変えていってもかまわないこと、書けなかった児童にはこれから作品をつくっていく中で考えていけばよいことを伝えた。

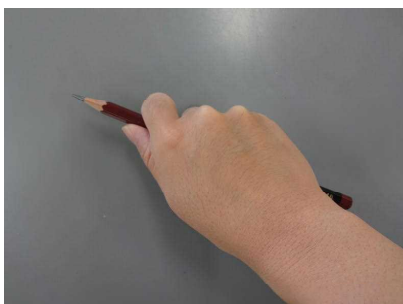
(2) 第2・3時 画用紙にカブトムシやチョウの絵の下描きを描く。

① 下描きを描く

まず、四つ切り画用紙に鉛筆で昆虫の下描きを描かせた。児童には、注意事項として以下の4点を説明した。

- ・画用紙いっぱい大きく描くこと（はみ出してもよい）
- ・薄く描くこと（鉛筆の持ち方も指示した）
- ・カブトムシは角、チョウは羽のように、注目するところから描くこと
- ・よく見て描くこと

なかなか大きく描けない児童もいた。そのような児童には、えんぴつで薄く丸を描き、全体の大きさを指示するようにして描き直させた。飛んでいるところの写真など、いい資料が多く集まっていたので、動きのある絵が描けた児童が多かった。昆虫の形が捉えられない児童は、写真を赤いマジックでなぞったり、大きさを比較させたりすることで描くことができた。



黒板に掲示した鉛筆の持ち方



鉛筆の持ち方に気を付けて描く



写真を赤いマジックでなぞる指で比較して大きさをつかむ

第4時 筆遊びを行い、筆の感触を知り、いろいろな線が引けることをつかむ。筆遊びで得た感覚を生かしながら、カブトムシやチョウの主線を筆でなぞる。

① 筆を下ろして、横線を引く

習字用の筆を持つことが初めての児童も多かったので、新品の筆を一人1本用意し、筆を下ろすところから始めた。最初は教師主導で一斉にゆっくり線を引いた。初めての感触に声を上げている児童が多かった。この時点で、すでに手を真っ黒にしている児童もいた。

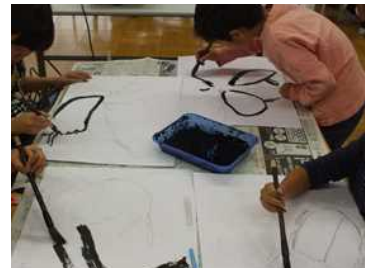
- ② 強弱をつけた線を引く
 続いて、筆の弾力性やいろいろな線が引ける筆の面白さを感じさせるように、教師のかけ声に合わせて力を入れたり緩めたりさせながら強弱をつけた線を引かせた。ここで、筆の持ち方を確認させ、大きく腕を動かせるよう、筆の真ん中辺りを持たせ、肘を上げて線を引くことができるように、写真で示しながら説明した。
- ③ 「はくりよく」ある線とはどんな線か考える
 せっかく筆で主線を描かせても、細い線で描いてしまっってはもったいない。そこで、児童の前で細い線と太い線でチョウを描き、今回描くのは「こん虫『かいじゅう』」であることを強調して迫力ある線が描けるように指導した。
- ④ ほかの「はくりよく」ある線、イメージに合う線を探す
 他にどんな線が引けるか試し、自分の「こん虫かいじゅう」のイメージに合う線を探させた。児童は画用紙にいろいろな線を引いて楽しんだ。自分の「こん虫かいじゅう」のイメージを表した擬音語・擬態語をひとつ決めてワークシートに書かせ、そのイメージが一番合う線を選べるようにした。
- ⑤ 「こん虫かいじゅう」の絵を、筆でなぞる
 ④で決めたイメージが表現できるように、筆でなぞらせた。墨で周辺が汚れないよう声をかけたが、神経質になりすぎるとのびのびした絵にならないと思ったので、新聞紙を敷く、画用紙自体は少し汚れてもその後切り取ったり、ちぎり絵にしたりする過程で見えなくなるので、気にしないよう個別に声をかけるなどの配慮を行った。



一斉に弾力ある線を引く



イメージに合う線を探す



「こん虫かいじゅう」の絵をなぞる



第4時板書（左側の資料が、第1時からずっと掲示した製作過程）

- (3) 第5～8時 カブトムシやチョウの絵を切り取り、マーメイド紙に貼る。
カブトムシやチョウに色紙などをちぎって貼る。

- ① ちぎり絵をする
 「こん虫かいじゅう」に命をふきこむ、と表現して、ちぎり絵の作業に入った。ここでは以下の2点について気を付けるよう話をした。
 ・筆で描いた線を踏まないように紙を貼ること
 ・「こん虫かいじゅう」のイメージを表せるように、どの紙を、どんな風にちぎって貼るか工夫すること
 花紙と折り紙を学校で用意したほか、前もって自分で使いたい包装紙などがあったら集めておくように声をかけておいたので、自分で用意したものを使ったり、友達からもらった紙を足したりした児童もいた。ここで児童から出た多様な工夫の一例は、「Ⅲ 成果と課題」で紹介する。ワークシートの振り返りにもイメージを表現するための工夫をよく書くことができた。
- ② はさみで線の外を切って、マーメイド紙に貼る
 少しちぎり絵を行って、「こん虫かいじゅう」の完成像が見えてきたところで、まわりをはさみで切り取り、四つ切りのマーメイド紙に貼る作業を行った。筆で描いた主線の外側を切るように指示したが、すでにちぎり絵を始めていたので、間違えて線の内側を切ってしまう児童はいなかった。



イメージが表せるよう、工夫しながら
ちぎり絵



班でちぎった折り紙や花紙を共有

(4) 第9～11時

カブトムシやチョウと遊んでいる自分や友達の絵を描く。
絵の具などを用いて背景を仕上げる。

- ① 鉛筆で下描きを描く
まず、第1次で書いていた作品の構想をもとに、自分や友達などの絵、背景にある建物などを鉛筆で下描きさせた。作品をつくっている過程で描くものを変えた児童もいたので、とらわれすぎず自分が描きたいように描くよう声をかけた。
- ② 油性マジックでなぞる
自分や友達、建物などの主線をマジックでなぞらせた。
- ③ クレヨンで着色する
クレヨンで丁寧に着色するように声かけした。
- ④ 絵の具などで背景を仕上げる
まだ絵の具の指導が十分行き届いていなかったため、塗り方を指導したり、場合によっては絵の具を使わずに完成させたりと個別に対応した。



鉛筆で周りの絵を描く



第2・3時と同様の持ち方で鉛筆を持つ

(5) 第12時

前時までに仕上げた作品を見合い、よさを伝え合う。

- ① 「こん虫かいじゅうもの語」を書く
「どんな場めんをかいたかな?～こん虫かいじゅうもの語」というワークシートを記入させた。「チョウチョの上ののって、下の景色を楽しく見ている場面」というように場面を説明した児童もいたが、友達と遊んでいると、こん虫かいじゅうが現れてさらわれて…と想像豊かに物語をつくった児童もいた。
- ② 鑑賞会を開く
今回は、友達に作品を紹介→質問タイム→鑑賞カードを書く→友達と鑑賞カードを交換して読み合うという流れで、同じグループの友達を中心に鑑賞会を行った。友達の作品の説明や「こん虫かいじゅうもの語」を聞いたり、「どうしてこの色で塗ったの?」などと質問して答えてもらったりする交流の中で、友達の作品の工夫やよさに気付く様子が見られた。



友達の絵の紹介を聞く



友達に質問して交流

III 研究の成果と課題

【成果】

1 アンケートの結果から

〈調査日〉平成26年12月18日 調査人数：27名

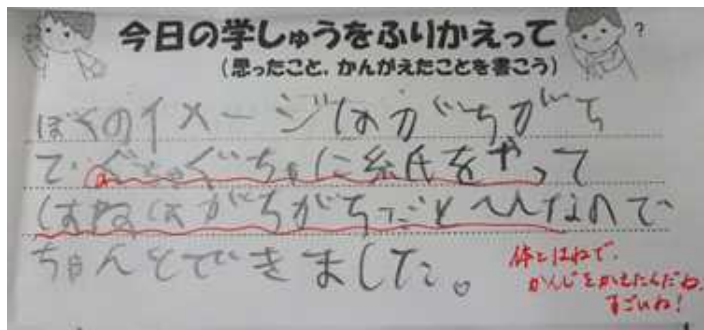
調査項目	回答(名)			
図工の学習が好きですか。	とても好き 19	まあまあ好き 7	あまり好きではない 1	好きではない 0
	【好きではない理由】 絵を描くのは好きだけど工作が苦手だから。			
「こん虫かいじゅうあらわる！」の作品づくりは楽しかったですか。	とても楽しかった 17	まあまあ楽しかった 6	あまり楽しくなかった 2	楽しくなかった 2
(楽しかった・まあまあ楽しかったと答えた人) どの作業が楽しかったですか。(複数回答)	動画や写真を見てイメージを話し合う 13	鉛筆で下描き 15	筆で描く 20	ちぎり絵 18
	まわりの絵を描く 20	こん虫かいじゅう物語をつくる 12	鑑賞 14	
こん虫かいじゅうのイメージをしっかりと描くことができましたか。	しっかりとてた 10	まあまあもてた 11	あまりもてなかった 3	もてなかった 3
(しっかりとてた、まあまあもてたと答えた人) そのイメージは、作品によく表すことができましたか。	よく表せた 11	まあまあ表せた 9	あまり表せなかった 1	表せなかった 0

- イメージをもつことができた児童は、ほぼ全員そのイメージを作品に表すことができた。「個々の感性を生かした作品づくり」という目標を全員に達成させることはできなかったが、イメージをもつことができた児童は、ほぼ全員そのイメージを何らかの形で作品に表すことができたと感じているようである。
- 大きな作品であっても、段階を踏んで指導することで意欲を継続し、完成させることができた。85%の児童が「作品づくりが楽しかった」と答えたこと、どの作業が楽しかったかという問いに対して、全部の項目にまんべんなく票が入ったことから、大きな作品であっても段階を踏んで作業することで焦点をしぼることができ、意欲も継続させられることが分かった。「図工の学習が好きか」という質問に対しては、「とても好き」と答えた人数は減ったものの、前回の調査で「あまり好きではない」と答えた児童が「とても好き」「まあまあ好き」と答えていた。「うまく描いたりつくったりできない」と答えていた児童が、「どんなものをつくるのかわくわくするからとても好き」と考えが変わったことは、自分にとって大きな自信となった。また、1回目の調査で鑑賞が好きと答えた児童は3名しかいなかったが、今回の調査では14名が楽しかったと答えたことから、鑑賞のやり方についても活路が見いだせたように感じている。

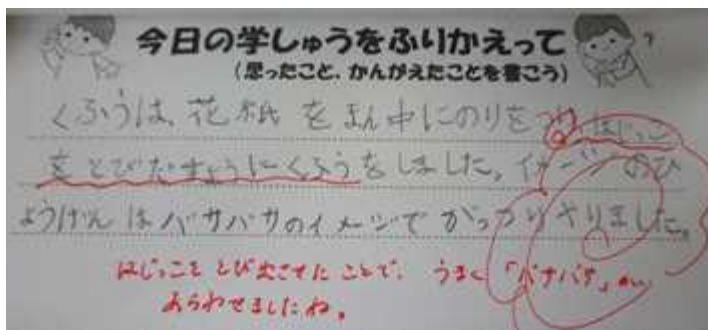
2 児童の作品及びワークシートから

- 児童がいろいろな工夫をして、イメージを表現することができた。

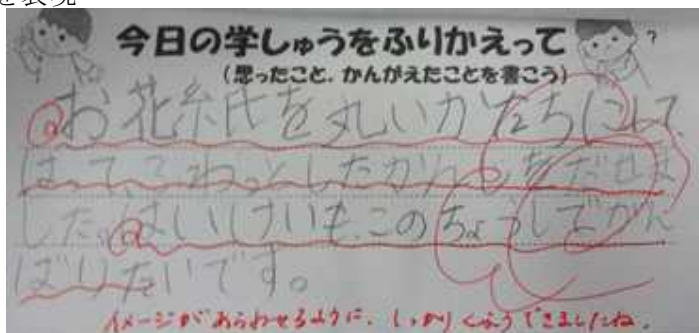
工夫①折り紙をぐちゃぐちゃにして貼って、「ガチガチ」を表現



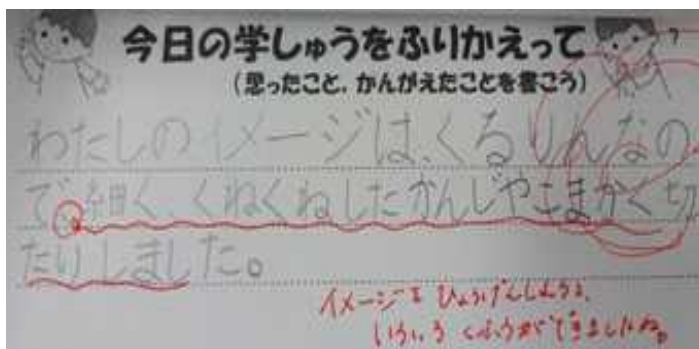
工夫② 花紙をべったり貼らないようにして、「バサバサ」を表現



工夫③ 花紙を丸めて貼って、「ふわっ」を表現



工夫④ 紙を細長く貼って、「くるりん」を表現



【課題】

- 1 イメージをもつことができるような手立てを考えること
イメージをもつことができなかつた児童が6名おり、また、「楽しくなかつた」と答えた児童のうち2名がその理由として「イメージをもつのが難しかった」ということを挙げていた。今回は動画を見せるなどの工夫を取り入れたが、もっと児童が感性を働かせてイメージをもてるような手立てを考えることが必要だと痛感した。また、イメージを擬音語・擬態語で表現させたことによって、児童の思考の見取りができ、適切に評価することができたが、一方で語彙力が乏しい児童にとっては、逆にイメージをもちにくくなってしまったことも考えられる。図画工作科として、どのように感性を働かせてイメージをもたせるかについて、今後追究していきたい。
- 2 作業を効率的に進めることができる手立てを考えること
今回は大きな作品の製作だったので、10時間扱いで計画を立てたが、実際は12時間を費やしてしまった。他教科との兼ね合いや、やはり「楽しくなかつた」児童のうちの1名は「つくるのが長かった」という理由を挙げていたので、もう少し時間を短縮し、その中で児童がのびのびと表現し、満足感を味わえるような手立てを考えていかなければいけないと思った。

〈参考資料，参考文献〉

文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作編」平成20年8月
東山 明 監修・初田 隆 編『図工科ニューヒット教材集①絵画・版画編』 明治図書 平成22年8月